

〔璩囊抄〕魚類字 鱒 王餘魚

〔和爾雅〕龍魚比目魚カレイ、鯢魚ウシノ、鯪魚シタカレイ、今按本草綱目時珍云、劉淵林以鯪爲王餘魚、蓋不然、呼クソソコカレイ 鯪魚出于

〔日本釋名〕魚中 鱒 かたわれ魚也、此魚一方は色かはりて白くして目も一方につけり、かたわれの

ごとし、たわを略せり、いはいをも、うをいを通ず、をの字を略す、

〔物類稱呼〕動物比目魚カレイ、ひらめ、畿内西國ともにかれいと稱す、江戸にては犬なる物をひらめ、小なるものをかれいと呼、然れども類同くして種異也、

常陸上總下總の浦々にて大なるを鱒カレイといひ、小なるを平目ヒラメといふ、江府の魚市に至る時は則名を變ず、又ある漁子、此魚兩種相偶して、洋中を遊ぶ、頭をならぶる時は、左右の違ひ有物なり

といへり、貝原翁は、かれといふは、かたわれ魚の略なりといえり、

越後にては、小なる物をこつべらと呼、云カレイの誤にや、佐渡にて大なる物をさかむかひと云、江戸にて云霜月カレイ、びらめを、越後の糸魚川にて、あさばとなづく、江戸に云はし、びらめを、駿河にてまつかは、びらめといふ、一種このは、かれいと云有、至カレイて小なる泉州にて岡田カレイといふと云、

鞋底魚カレイのカレイ、一名くつぞこ、關西及東國の海邊にてうしのカレイと稱す、江戸にて舌カレイびらめと呼、備前にはくちげと云、越前にては、がれいと云、

〔大上薦御名之事〕女房ことば

一かれい ひらめ かためども

〔本朝食鑑〕江海有鱒、鱒音、鱒訓、比

釋名比目、其女訓、比、王餘魚訓、加禮比、鱒比、目、王餘、中華之名、而本朝亦用之、近俗謂大者號比羅女、小者號

集解、處處多有、形似魴而平薄、頭小、嘴尖、雙眼相並而近在背向上、表黑有細鱗、裏白無鱗、有細紋、腹在

脇小而近鰓下、自秋冬至春初有子、滿腹大者二三尺、小者有差、春末夏初最多采之、其種類多矣、一種